

◆2020年度入学生  
専門教育科目：心理臨床学科

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成）				カリキュラム・ポリシー（実施の方針）															
他者および人間環境を幅広い視点で理解・受容するとともに、現代の世情や地域・現場ニーズを考慮しながら、鋭い感性と的確な判断力に基づいて問題解決を図ることができる人材を育成するためのカリキュラムを編成します。				1. 幅広い視点と判断力・解決力を培うための幅広い教養と専門的知識・スキルの修得 共通教育科目で幅広い教養を身につけながら、心理学研究法、心理メカニズム、人間の成長と環境、心理臨床的援助、特別支援教育実践、精神保健福祉の援助に関する専門的知識・スキルを高めています。				2. 心理学の知識を備えた特別支援学校教諭・精神保健福祉士の育成 特別支援学校教諭や精神保健福祉士を目指すうえで、自己・他者の心に向き合い、円滑な対人関係を築くために有用な心理学専門科目の修得を推奨しています。				3. 充実した演習や体験学習の提供 豊かな人間性を育むことを目指したボランティア体験、得られた心理学の知識を確認するための心理査定や心理学実験、教育実践スキルや福祉的援助スキルを高めるとともに、地域・現場のニーズへの理解を深めるための教育実習や補助実習を積極的に行います。				4. 大学院進学に向けた科目の充実 臨床心理士または研究者を目指して大学院進学を志している学生のために、心理学関連科目のバリエーションが広いだけでなく、大学院で必要な英文読解力を養うための英語科目を独自に開設しています。			
(1)				(2)				(3)											
広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間力				教養と専門に関する知識を身につけ、社会のさまざまな分野で活動できる能力				社会の動向に関心をもち、その変化やニーズに対応できる能力											
授業科目	ナンバリング	配当年次	心理臨床学科の評価規準 1. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる	心理臨床学科の評価規準 2. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる	心理臨床学科の評価規準 3. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる	心理臨床学科の評価規準 4. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる	心理臨床学科の評価規準 5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心をもち、心理学、特別支援教育、精神保健福祉の視点を活かしてアプローチすることができる	心理臨床学科の評価規準 6. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる											
心理コース	心理コースの評価規準1 人や心の性質の基本的理解に関する資質・能力		心理学の基本的知識、心の仕組みや生涯発達、対人関係に関わる心理について説明できる。		心理学的な基礎知識を臨床実践技能に結びつけて、その技能を用いることができる。														
	心理コースの評価規準2 人や心・行動の調査・分析に関する資質・能力		心理学実験・調査やデータ分析技法について説明できる。	目的に合わせて実験・調査方法を考えたり、適切なデータ分析方法を選択したりして、その結果を適切な表現でレポート作成したり発表したりすることができる。	心・行動の特徴を適切な方法でアセスメント・調査した結果を適切に報告して、臨床実践や現場で役立てることができる。														
	心理コースの評価規準3 心理学的視点に基づいた洞察・考察に関する資質・能力						人の生き方や心の在り方の多様性を理解し、身近な人からグローバルな社会に至る様々な事象を心理学的に理解して、解決の必要な問題に取り組むことができる。												
	心理コースの評価規準4 対人関係の構築・維持にかかわるコミュニケーションの資質・能力				他者との関係の構築・維持にかかわる心理やコミュニケーション・スキルを修得して、臨床実践現場で応用することができる。	臨床実践現場において効果的に問題を解決するために、他者との関係の構築・維持につながるコミュニケーションを行うことができる。													
	心理コースの評価規準5 心理アセスメントや心理療法の実践に関する資質・能力			臨床実践現場において必要なアセスメント技法、研究方法、データ分析やデータの扱い方を説明したり実践に活かすことができる。	心理アセスメントや心理療法に関する専門的知識を修得して、臨床実践現場で適切に用いることができる。	臨床実践現場の心理師として適切に連携を組んで協働できる実践的な知識をもち、現場あるいはクライアントの必要に応じて適切な判断・対応することができる。													
心理学領域科目	臨床心理学概論	1	●	●	●														
	心理学研究法	2	●	●															
	心理学統計法	2	●																
	心理学実験	2	●	●															
	知覚・認知心理学	2	●																
	学習・言語心理学	2	●																
	感情・人格心理学 I	2	●																
	感情・人格心理学 II	2	●																
	神経・生理心理学 I	2	●																
	神経・生理心理学 II	3	●																
	社会・集団・家族心理学 I	2	●				●												
	社会・集団・家族心理学 II	2	●				●												
	発達心理学 I	1	●																
	発達心理学 II	2	●																
	障害者・障害児心理学	2	●			●	●												
	心理的アセスメント	2	●	●															
	心理学的支援法	2	●	●		●	●												
	公認心理師の職責	2	●	●		●	●												
	健康・医療心理学	3	●	●		●													
	福祉心理学	3	●	●		●	●												
	教育・学校心理学（教育相談）	3	●	●		●	●												
	司法・犯罪心理学	3	●	●		●	●												
	産業・組織心理学	3	●	●		●	●												
	人体の構造と機能及び疾病（医学一般）	2	●																
	精神疾患とその治療（精神医学 I）	3	●				●												
関係行政論	3	●																	
教育心理学	3	●																	
認知行動療法	2	●	●		●														
精神分析学	3	●	●		●														
心理データ解析	3	●	●																
心理測定法	3	●	●																
心理学外書講読 I	3	●																	
心理学外書講読 II	3	●																	
心理学外書講読 III	4	●																	
心理学研究演習	3	●	●		●														
心理演習 I	3	●	●		●	●													
心理演習 II	3	●	●		●	●													
心理実習 I	3	●	●		●	●													
心理実習 II	3	●	●		●	●													
心理実習 III	4	●	●		●	●													
特支コース	特支コースの評価規準1 社会のニーズを踏まえた障害の理解と自己の在り方の省察に関わる資質・能力		障害概念の変遷を踏まえ、ICFモデルに基づく障害理解の仕方を説明できる。	ICFの障害モデルに基づき個々の障害状況に応じた活動制限、参加制約を把握することができる。			共生社会の担い手としての自己の在り方を述べるることができる。												
	特支コースの評価規準2 特別支援教育の理念や制度、仕組みに関する資質・能力		特別支援教育の歩み、理念・目的、制度、関係機関との連携について説明できる。				特別支援教育の歩みと今日の動向から学校教育の目的と社会的役割を説明することができる。特別支援教育の実践的経験を積み重ね、特別支援教育者としての自己の在り方を述べるることができる。												
	特支コースの評価規準3 心身の障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病理への理解に関する資質・能力		心身機能・身体構造への基礎的理解を踏まえ、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の心理・生理・病理を説明できる。				特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の心理・生理・病理への理解と指導・支援のアプローチの関連を述べることができる。障がい児・者とその家族が日常生活や学校生活で経験する困難さを把握するために、積極的にコミュニケーションを図ることができる。												
	特支コースの評価規準4 心身の障害のある幼児児童生徒の教育課程・指導法への理解に関する資質・能力		特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の障害状況に応じた教育課程編成と指導・支援の方法を説明できる。		特別支援教育の対象となる幼児児童生徒とコミュニケーションをとり、指導・支援を実践できる。特別支援教育の対象となる幼児児童生徒や保護者との適切なかわりを通じて指導・支援につなげることができる。														
	特支コースの評価規準5 心身の障害のある幼児児童生徒への教育実践に関する資質・能力		特別支援教育における学習指導案の構成要素を説明することができる。	特別支援教育における学習指導案を作成し、それに基づき模擬授業を行うことができる。			授業研究会を通じて、自らの授業実践を対話的・協同的に振り返り、改善につなげることができる。												
特別支援教育学領域科目	障害者教育総論 I	2	●			●	●												
	障害者教育総論 II	2	●				●												
	発達障害者の心理	2	●																
	障害者の病理・保健	3	●	●															
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	●	●															
	病弱者の心理・生理・病理	3	●	●															
	発達障害者の適応援助	2	●	●															
	コミュニケーション障害者の適応援助	3	●	●		●													
	発達援助の技法	3	●	●		●	●												
	肢体不自由教育総論	2	●	●		●	●												
	病弱教育総論	2	●	●															
	視覚障害教育総論（心理等）	3	●	●															
	聴覚障害教育総論（心理等）	3	●	●															
	重複障害教育総論（心理等）	3	●	●															
	軽度発達障害教育総論（心理等）	3	●	●															
コミュニケーション障害者の心理	2	●	●		●														
視覚障害教育総論（教育課程等）	3	●	●			●													
聴覚障害教育総論（教育課程等）	3	●	●			●													
重複障害教育総論（教育課程等）	3	●	●			●													
軽度発達障害教育総論（教育課程等）	3	●	●			●													
(特別支援学校教育実習 I)	4	●	●		●	●													
(特別支援学校教育実習 II)	4	●	●		●	●													
PSWコース	PSWコースの評価規準1 人・社会・生活と福祉の理解に関する資質・能力		バイオ・サイコ・ソーシャルな視点と社会福祉の考え方について説明できる。																
	PSWコースの評価規準2 総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する資質・能力		精神保健福祉士の実践の歴史的経緯及び理念と精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助について説明できる。	ソーシャルワークの価値と理念に基づき基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立て、必要なアプローチについて考えることができる。	相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いることができる。	現場実習を通して、精神保健福祉現場の現状と課題について理解を深め、相談援助に係る専門的な知識と技術の実践的な体得と、関連分野の専門職との連携のあり方について実践的に理解する。	地域共生社会の担い手である精神保健福祉士として、専門的な価値・知識・技術を用いたアプローチについて述べるることができる。												
	PSWコースの評価規準3 医療及び関係機関と協働・連携する相談援助の理念と方法に関する資質・能力		精神科リハビリテーションの理論やターゲットを知ったうえで、医療機関との連携について説明できる。				現場実習を通して医療機関及び関係機関の役割について理解を深め、他機関協働について実践的に理解する。												
	PSWコースの評価規準4 制度と福祉サービスの理解に関する資質・能力		精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について説明できる。				現場実習を通して捉えた、精神障害者の生活支援に関する社会的課題について説明することができる。												
	PSWコースの評価規準5 精神保健福祉分野における社会的課題に関する資質・能力		今日の精神保健福祉の現状と課題を精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践について説明できる。					様々な精神保健福祉課題に対して、問題意識を持ち適切な研究方法で分析し考察することができる。											

精神保健福祉学領域科目	社会福祉原論Ⅰ	1	●						
	社会福祉原論Ⅱ	1	●						
	地域福祉論	2	●					●	
	地域福祉方法論	2	●					●	
	社会保障論Ⅰ	3	●						
	社会保障論Ⅱ	3	●						
	公的扶助論	2	●						
	福祉行財政論	2	●						
	医療福祉論	1	●						
	福祉法学	3	●						
	医学一般	2	●						
	精神保健福祉論Ⅰ	1	●						●
	精神保健福祉論Ⅱ	2	●						
	精神保健福祉論Ⅲ	2	●						
	精神保健福祉論Ⅳ	3	●						●
	精神医学Ⅰ	3	●						
	精神医学Ⅱ	3	●						
	精神保健学Ⅰ	2	●						
	精神保健学Ⅱ	2	●						
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	3	●						
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	3	●						●
	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	2	●		●				●
	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	2	●		●				
	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ	3	●		●				
	学校ソーシャルワーク論	3	●		●				
	学校ソーシャルワーク演習	4			●	●			
	学校ソーシャルワーク実習指導	4			●	●	●		
	学校ソーシャルワーク実習	4			●	●	●		
	精神保健福祉現場体験	3			●	●	●		
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3			●	●	●		
精神保健福祉援助演習Ⅱ	4			●	●	●			
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4			●	●	●			
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3			●	●	●	●		
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4			●	●	●	●		
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4			●	●	●	●		
精神保健福祉援助実習	4			●	●	●	●		
共通	法学	2	●						
	心理臨床学の基礎	1	●						
	心理学概論	1	●						
	ソーシャルワーク論	1	●						
	特別研究	3							●
卒業研究	4							●	